



浜 家 連ニュース 8月号

第204号

平成29(2017)年8月1日発行

○発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816 FAX 045(548)4836
URL <http://hamakaren.jp/>

精神障がいの特化した作業所(地域活動支援センター)運営に関わって 副理事長 松本やす子

地域作業所の運営委員長を受けて16年が経過しました。当初息子の病気を抱え病気が理解できないまま、息子をどう扱ったらいいのかの葛藤のまっ只中にいました。

1983年(昭和58年)10月に金沢区に精神障がい者の作業所が開所され、当初は6畳1間で床が抜け落ちそうなところから始まり、初代職員、家族会会長の、並々ならぬご苦労の基、開所されたことをお聞きしております。開所から少しずつ場所が代わり、私が関わったときは3か所目、2DKの3階部分のマンションでした。大きな体のメンバー12~13人が作業台を囲んでの作業、ボランティアさんが食事作りに来られても、荷物を1階に降ろす時も壁をこすりながらの移動でした。メンバーの調子が良くないときに故意に壁に大きな穴を空けてしまうトラブルは良く起こりました。平成15年に現在の場所に移りました。目の前が海、ヨットハーバー、シーサイドラインが海の上をのどかにカーブを描いて往来している、海辺の遊歩道は四季折々の花が咲く、この場に移れたときは嬉しかったです。広々とした部屋、身をかがめなくても作業できる、ゆったり休める場所もできた。この移動に当たって区役所、地元、不動産会社との話し合いに大変苦難を強いられました。いざ事業が始まったら、町内会、地域関係者、家主さん、など住民に馴染んだ居住になっています。

作業所でのメンバーの動き、体調の具合が気になります。皆さん内面に色々な悩みを抱えて作業所内

で過ごしています。でも私が作業所に顔を出すと、皆明るく元気な挨拶が返ってきます嬉しい瞬間です。メンバーは作業所内で色々な思いを秘めて作業に励んでいます、家に戻った時家族に「職員に注意された」「〇〇に変なこと言われた」など不満や、無言になったりの態度をとる。又作業所を休む理由には「風邪気味」「腹の調子悪い」など連絡入る。私は両方の立場が良く見える立場にいます、家族は本人の言葉で「そうそんなこと言われたの」と感じる。メンバーは作業所を休む理由に本音(私訴)がかくれていることが多い。病状で誰かに話し掛けていないと落ち着けないメンバー、声かけられることが嫌いなメンバー、無視されていると感じるメンバー、様々です。家族としては作業所に行って友達を作ってもらいたい気持ちが有ります。友達ができたと喜んで直ぐ破たんがきます。職員は日々メンバーの様子を良く見てくれています「怒られた」と言う文言だけ聴いて家族は不安を持つかもしれませんが、注意の前に何らかの行動が有ります、お互いの話を聴いた状態で、注意すべきは注意し、全体的に調和をとって来ています。家族は不安を感じたら遠慮しないで相談してください。当事者の本当の気持ちが見えること・知ることがリカバリーへの道です。長い関わりの中で沢山の出来事に遭遇しながら勉強できてきました。1番嬉しかったことは男子職員2人がそれぞれに私の目の前で結婚式を挙げられたこと、幸福にこの職場で従事していることです。





平成30年度予算編成に向けての要望書の提出及び懇談会は予定通りすべて終了しました。健康福祉局との懇談については、9月号で詳しく報告します。

家族学習会担当者研修会が開催されました

感動的だった担当者研修会 in 横浜

みなと会 柏木 彰

浜家連で家族による家族学習会が始まってから今年で10年目になります。

7月3日(月)ラポール大会議室で恒例の担当者研修会 in 横浜が開催されました。

参加者は、いずみ会・たちばな会・もみじ会・みなみ会・あおば会・みどり会・なぎさ会(以上浜家連)の皆さま21名と湘南あゆみ会(平塚市)4名、子供の立場の会(東京)から4名の29名でした。

見学者は10名を超え、今までになく支援者の関心が高いことが分かりとても心強く感じました。その内訳は健康福祉局1名、緑区福祉保健センター2名、緑区生活支援センター3名、神奈川病院スタッフと病院家族会(さくらの会)4名、創価大学看護学科1名でした。

研修会のプログラムは「家族学習会とは」にはじまりグループワーク「リーダー・コリーダーを体験してみよう」で終わるものでこれまでと特に変わった点はなく滞りなく終了しましたが、これまで私が経験した担当者研修会の中で最も感動的なものでした。

当日はA, B, Cグループに分かれて実際の家族学習会を体験するワークをしました。Cグループは「子どもの立場の会」4名と「湘南あゆみ会」4名の組み合わせでした。

「子どもの立場の会」というのは夏苅先生や糸川先生のように小さな頃から精神障害を抱えた親(主に母親)と生活をしてきた人たちのピアグループです。当日参加者の皆さんは20代~40代の若い方たちでした。

一方の、湘南あゆみ会の4名は親の立場や配偶者、兄弟姉妹の立場の方たちで年齢は60~70代でした。湘南あゆみ会はこれまでに家族学習会を6年続けて開催しています。

感動的なことはこのCグループのワーク中のことでした。

その時の感動の様子は当事者の方からいただいた感想文をご覧ください。

1. 家族による家族学習会研修の感想 湘南あゆみ会 小泉 智子さん

グループワークで湘南あゆみ会と「子どもの立場の会」4名ずつが、実際の家族会をやった。私たちが初めに担当者となった。立場の違いについて、鶴殿さんが「親の立場の人が多く、子どもの立場の人はなかなか話せなかったりで大変だったでしょう」というような事を話されると、子どもの立場の方々は涙を流し、声をあげて泣く人もいた。

私も共感し思わず抱きしめ、「いい子だ、よくやってきた」と言って頭をなでていた。

2. 担当者研修会に参加して 「子どもの立場」の会 Aさん

先日の研修会では大変お世話になりました。

グループワークでは、参加者の側の役に回った時に、担当者側の方からのねぎらいの言葉に、一緒に参加した仲間が号泣してしまう場面がありました。

これが一番印象的だった。治そうとするな、分かってせよと言いつけてきた私だが、自分にされたかのように、もてなしをすることで、ようやく参加された方が励まされたことを知って嬉しかった。

これからも、一人でも多くの方が孤立しないで繋がるように願っている。家族学習会はそのために有効であるので続けていきたい。始められたところはぜひ続けてほしい。



されてきて、素直に泣くことが出来ました。

また、泣いていたら隣の女性の方が背中をさすってくださり、うれしくて、さらにみんなで泣いてしまいました。

その方たちは（担当者研修会を）再三にわたって受講し研鑽を重ねられているベテランの方たちで

3. 担当者研修会に参加して 「子どもの立場」の会 Bさん

大変素晴らしいプログラムで素人の私でも1日で、具体的なたくさんのお話を学ぶことが出来ました。また、皆さまも大変な思いをされているのに、優しくして頂いて、思いやって頂いて、本当のお父さん

4. 担当者研修会に参加して 「子どもの立場」の会 Cさん

親の立場の方と関わる機会があまりなかったが、話を聞いてもらったことで自分の親に対する気持ちに改めて目を向けることが出来ました。

5. 担当者研修会に参加して 「子どもの立場」の会 Dさん

自分の過去に振り返りができました。そばにこんな子ども思いのお父さんやお母さんがいたら良かったのにと感じてしまいました。

当日、私は司会を務めながら時々Cグループのワークを覗かせてもらっていました。

子どもの時から親に甘えることも出来ず、つらい体験を誰にも言えず長い間一人で耐えてきた方たち。夢見てきた優しいお父さんやお母さんをなんとなく感じさせる湘南あゆみ会の方たちに、ねぎらいの言葉をかけられ、これまで必死に耐えてきた胸の思いが一気にこみ上げてきて嗚咽が止まらなくなりました。とても感動的なグループワークを目の当たりにして私もしばらく涙が止らなかった。 以上

したがこれがリカバリーというものなのかと身をもって体験させていただきうれしくて帰ってきました。

私たちの学習会でも参加者の方に、同じような思いをして帰って頂けるよう微力ながらもがんばりたいと思いました。

お母さんだったらと正直思ってしまったとともに、うちの親も隠れているけれど、こういう愛情を持ってくれているんだろうなと思いました。

笑いあり、涙ありのグループワークでしたがとても有意義な時間でした。

ったのにと感じてしまいました。抑えきれずに泣いてしまいすみませんでした。

平成 29 年度第 1 回 浜家連研修会報告

患者さんの社会復帰をめざして～訪問診療から見てきたこと～ 音田 園恵（あじさいの会）

日時 6月16日（金）13:00～16:00

場所 横浜ラポール2階 大会議室

講師 武田充弘先生（しんよこメンタルクリニック院長）

参加者 107名



昨年の9月に開業され43歳の穏やかな感じの先生のお話を6月16日に伺いました。

「しんよこメンタルクリニックは、新横浜駅前（ラポールとは駅の反対側）にあり診察室からは新幹線と緑が眺められます。

医師2名により交互に、午前は外来診療 午後是在宅医療（訪問診療・訪問看護）を行い 同時に専門家チームによるデイケアを行っています。

診療室だけでは 患者さんの一部しか分からないので不十分と考え、その方の生活史を加味し 精神保健福祉士 看護師 心理士など職種の違いを活用して総合的な医療を目指している とのこと。病気があっても自分にとって満足のいく生活を目指したいものです。」

私が印象に残ったことがあります。

●回復期を迎えた方へのメッセージで

薬をうまく活用するー医者が言うのもなんですが前置きがあり 出された薬を飲んでいけばいいというものではない。自分にとって薬をどう活用

●家族の対応のポイントで

解決策を出そうと焦らない 一緒に考えるとよい。家族も自分のための時間を取り気分転換を図る。余講演の後に質問が3件ありました。

★「病識のないひきこもりの息子を訪問診療していただくには何か条件がありますか？たとえば、本人が拒否して「帰ってくれ」という場合 諭してくれますか？またしばらくして再度お願いした時、対応していただけますか？その際の費用は？」

☆「よくあるケースです。初回がダメでも2回3回と時間をつくって訪問する。切迫してる場合は別ですが、家族と協力して知恵を絞り対応していく。最初拒否していても本人の困っていることを中心に粘り強く治療の方向へ持っていく。費用に関しては一般の外来よりはコストは高いが、自立支援と保険内で訪問する。」

★「“治療より回復がむずかしい”とありますがデイケアはどの辺までカバーしていただけるのか？」

訃報

浜家連の顧問社労士をお願いしておりました小山志郎先生が、6月22日御逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

小山志郎先生を偲ぶ

小山先生の訃報に、ただ驚いています。先生が浜家連と結びついてくださったのは、私が理事長になったばかりの頃でした。奥様が「ほっとぽっと」のボランティアをされていた関係で、あけぼの会に紹介があり、何人かの会員さんが救済されました。先生自身の希望もあり、浜家連の顧問社労士になっていただきました。

先生は、いったん不支給になった案件でも、わずかな可能性を見つけ、支給に結び付けてくださいました。制度に対する正確な知識、緻密は事実調査、高度な交渉力が相まって、高い成功率を維持されて

すれば最大限プラスになるか薬を主体的に活用すること。



裕がないとギスギスしてしまうので。

☆「まず個人でするもの（書道）などからまた体を動かすプログラム（ラポールでジムトレーニングをしたり）などできるものから入っていただき 場に慣れてくると集団で取り組むプログラムに参加してもらおう。SST・認知行動療法・IMRなど自信をつけてもらうプログラムに参加してもらおう。そして自分の目標に進んで行く。就労が希望ならば就労の事業所に繋げて行く。見学は連絡いただければオーケーです。」

★「どういう状況になった時 診断を伝えるか？」
☆「デリケートなことなので本人が受け入れられるタイミングを見計らってから伝える。今は神経過敏状態ですね。などと伝えている」

浜家連顧問 米倉令二

きました。

亡くなる直前まで、じんかれん、川家連(あやめ会)でのサポートもされてこられました。5月に行われたあけぼの会の総会では、亡くなる1か月前だったにもかかわらず、元気に講演をしてくださったそうです。ご自身もあけぼの会の会員でした。

ひたすら当事者と家族の利益を追求して下さった先生のあの厳しい表情が忘れられません。「このことに生涯をかける」とおっしゃっていた通りになりました。安らかなるご冥福をお祈りするのみです。

【編集後記】 今年は梅雨明けまえから猛暑日となり「熱中症で死亡」の記事も見ますが本格的な夏に向かって「快適な夏」を過ごせるように健康管理をしたいものです。

★浜家連の夏休みは8月14日～18日となります。

(事務局 中居)